

**第5回**  
**東日本大震災復興支援**  
**リハビリテーション工学講習会 in 宮城**  
**報告書**



**2017年5月13日(土)～14日(日)**

**於: 戦災復興記念館**



**日本リハビリテーション工学協会**



一般社団法人日本リハビリテーション工学協会は、生活を行う上で障害を有する人々に対し、その生活を豊かに実現するための工学的支援技術を発展・普及させるとともに、この技術を通じて学術・文化・産業の振興に寄与することを目的とし、この目的に賛同する個人および団体によって構成されています。

当協会では被災地域からの支援要請に応えることができるよう 2011 年 4 月 13 日に「東日本大震災復興支援に関する専門委員会」を設置し、2011 年度は、宮城県名取市箱塚桜応急仮設住宅（箱塚桜団地）において住宅改修活動を 2012 年度は第 1 回復興支援講習会 in 盛岡、2013 年度は第 2 回復興支援講習会 in 福島、2014 年度は第 3 回復興支援講習会 in 宮城、2015 年度は第 4 回復興支援講習会 in 福島を行いました。

一旦「東日本大震災復興支援に関する専門委員会」を終了し、その後の復興支援と、平成 28 年熊本地震を受け、来るべき大災害に対応すべく、新たに「災害対策委員会」を設置いたしました。

震災から 6 年が経過しましたが復興はまだまだです。ともすれば記憶から遠ざかっていきかねない現状ですが、まだまだ忘れてはなりません。そのような状況に対し、当協会の 2016 年度の活動のひとつといたしまして、被災県である宮城県にて、いくつかの SIG によるリハ工学・支援技術に関する講習会を開催することになりました。このイベントを通して、わずかではありますが被災地の復興の一助になればと思っています。

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会  
会長 繁成 剛  
同東日本大震災復興支援講習会実行委員会  
委員長 沖川 悦三



◆事業名称

第5回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城

◆実施日

2017年5月13日（土）～14日（日）

◆会場

戦災復興記念館

◆主催

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

◆共催

コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG  
特別支援教育SIG、SIG住まいづくり、移乗機器SIG  
乗り物SIG、SIG褥そう防止装置、義肢装具SIG、SIG自助具

◆協賛（順不同）

株式会社岡村製作所、京都機械工具株式会社、日進医療器株式会社  
株式会社アクセスインターナショナル、合同会社アクティブショップまる  
株式会社アサヒテックコーポレーション、e企画、株式会社今仙技術研究所  
WHILL株式会社、株式会社エヌエス、株式会社オーエックスエンジニアリング  
川村義肢株式会社、株式会社カワムラサイクル、有限会社木村義肢工作研究所  
車いすSIG、株式会社ケイアイ、株式会社コーヤシステムデザイン  
株式会社ジェー・シー・アイ、タカノ株式会社、旬彩つくし  
株式会社766、日本チェアスキー協会、パシフィックサプライ株式会社  
有限会社ビューティフルライフ、株式会社プラッツ、株式会社松永製作所  
株式会社ミキ、株式会社モリトー、株式会社ユーキ・トレーディング

◆プログラム

1日目 5月13日(土)		2日目 5月14日(日)		
9:30～	受付: 第2会議室(60名)	研修室(64名) ※固定席(階段教室)	09:00～ 10:20	
10:00～ 10:10	開講式 会長挨拶:繁成剛(東洋大学)、実行委員長挨拶:沖川悦三(協会理事・神奈川県総合リハセンター)		⑨移乗機器 SIG 「「みんなが使ってくれる」移乗機器導入のコツ」 講師:松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)	
10:10～ 11:30	①特別企画 司会:繁成剛(会長)、沖川悦三(災害対策委員長) 1:「宮城県名取市箱塚桜団地仮設住宅と共に」 講師:市川一子(箱塚桜団地 ゆめ工房) 2:「熊本地震を通してリハビリテーション工学協会ができたこと、できなかったこと」 発言者:岩崎満男(理事)、吉田泰三(理事)		⑩自助具 SIG 「自立生活を支える自助具」 講師:岡田英志(ヒューマン)	
10:30～ 11:50			⑪移乗機器 SIG 「「みんなが使ってくれる」移乗機器の教え方・伝え方」 講師:松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)	
11:30～12:30	お昼休み		11:50～12:50 お昼休み	
12:30～ 13:50	③SIG 姿勢保持 「標準型車椅子での座位姿勢を改善する具体的な方法と技術」 講師:繁成剛(東洋大学)、鈴木聖貴(川村義肢)	④SIG 住まいづくり 「高齢や身体障害のため、起立や歩行ができなくても、福祉用具を活用し住環境改善で楽しい生活を！」 講師:松尾清美(佐賀大学)	12:50～ 14:10	⑬車いす SIG 「車椅子用クッションの選び方・使い方～体圧分布測定器を用いた評価～」 講師:江原喜人(総合せき損センター)
14:00～ 15:20	⑤SIG 姿勢保持 「見近な材料を使った姿勢保持具の製作実習」 講師:本郷俊哉(木村義肢)、鈴木聖貴(川村義肢)	⑥乗り物 SIG 「重度障害と被災～地域防災力の向上に向けて～」 講師:櫻井理(NPO法人 Li FESET)	14:20～ 15:40	⑭車いす SIG 「「地域包括ケアシステム」における車椅子ユーザーの生活」 講師:桂律也(クラーク病院)
15:30～ 16:50		⑧特別支援教育 SIG 「発達支援をかんがえよう！」 講師:北山淳(大和大学)		⑫コミュニケーション SIG 「力の弱い障害を持つ方のゲーム操作を考えよう！」 講師:田中栄一(国立病院機構八雲病院)
				⑭コミュニケーション SIG 「情報通信機器(パソコン、スマートホン、タブレット)を操作する入力装置について」 講師:上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)
				⑯SIG 褥そう防止装置 「新しい褥そう概念とリハビリテーション工学」 講師:河合俊宏(埼玉県リハセンター)

◆プログラム概要

①特別企画 司会:繁成 剛(会長)、沖川悦三(災害対策委員長)

1:「宮城県名取市箱塚桜団地仮設住宅と共に」

講師:市川一子(箱塚桜団地 ゆめ工房)

東日本大震災で、閑上地区は 5,600 人の住民のうち死者行方不明者が約 800 名という大きな被害に遭い町はなくなりました。すべてをなくし仮設住宅に暮らす人たちが、少しでも明るい気持ちで取り組める手仕事を。そんな思いから閑上の方が入居している仮設住宅「名取市箱塚桜団地」に 2012 年 3 月、アクリルたわしを製作販売する「ゆめ工房」を立ち上げました。「ゆめ工房」は、平均年齢 75 歳 最高年齢 88 歳になる方々とボランティアメンバーで活動しています。当日は「ゆめ工房」の歩みを通じて、箱塚桜団地の過去、現在、未来についてご講演いただき、熊本地震の活動報告などを通して日本リハビリテーション工学協会としても災害支援のあり方を考えてみたいと思います。

2:「東日本大震災・熊本地震を通してリハビリテーション工学ができたこと、できなかったこと」

発言者:岩崎満男(理事)、吉田泰三(理事)





### ③SIG姿勢保持

#### 「標準型車椅子での座位姿勢を改善する具体的な方法と技術」

講師: 繁成 剛(東洋大学)、鈴木聖貴(川村義肢)

概要: 折りたたみのできる標準型車椅子はスリングシートを採用しているため、高齢者が座った時に「滑り座り(仙骨座り)」や「斜め座り(側屈姿勢)」になりやすい。このような姿勢で長期間座っていると褥瘡や脊柱などの変形を生じる可能性が高いので何らかの対処が必要である。可能であれば使用者の体型や状態に合わせて調整できるモデュラー型車椅子で個別に対応することが望ましい。しかし高齢者施設の現場では標準型車椅子を使わざるを得ない状況が多いので、できるだけ費用がかからず、特殊な工具や素材がなくても、車椅子利用者の状態に対応する知識と技術が必要と考える。そこで、本講習ではホームセンターや百元ショップなどで入手できる発泡材やマジックテープなどを使って、姿勢を改善する簡易的な方法について紹介する。



### ⑤SIG姿勢保持

#### 「見近な材料を使った姿勢保持具の製作実習」

講師: 本郷俊哉(木村義肢)、鈴木聖貴(川村義肢)

概要: 標準型車椅子のスリングシートに高齢者が座ったときに座位が不安定になる原因の一つは、シートの撓みによって骨盤が後方あるいは左右に傾き、臀部が前方に滑ることである。これを解消するには撓んだシートを通常の椅子と同様のしっかりとした座面にするため、バスマットなどの発泡材をカッターナイフで切り出して、撓んだスリングシートを補正する船底型ベースを設置し、その上に骨盤の後傾と左右の傾斜を防ぐサポートと前方への滑りを防ぐアンカーサポートを、発泡材をカッターナイフで加工し、万能ボンドで接着して製作する。その上に柔らかいウレタンフォームや化繊綿等の入った薄い座布団を滑らないようにカバーすれば、簡易的なモールドシートが完成する。さらに対象者の姿勢を改善するためには、必要に応じて骨盤後方から腰椎下部にかけてサポートするクッションや、左右の体側サポートを加えることが必要である。以上のような車椅子上の座位を改善する姿勢保持具を参加者に製作していただく予定である。



#### ④SIG住まいづくり

**「高齢や身体障害のため、起立や歩行ができなくても、福祉用具を活用し住環境改善で楽しい生活を！」**

講師: 松尾清美(佐賀大学医学部 地域医療科学教育研究センター 福祉健康科学部門)

概要: 高齢となったり、事故などで身体に障害が現れて、起立したり歩行することができなくなったとしても、身体機能に適した福祉用具を活用し、住環境を移乗・移動方法、過ごしたい生活方法などに合わせて改善し、自分でできること(自立)を増やし、自分でできないことは介助者にやって欲しい方法で介助を依頼(自律)して誇らしく、楽しい生活をする方法を事例や動画を通して伝えたいと考えています。



#### ⑥乗り物SIG

**「重度障害と被災～地域防災力の向上に向けて～」**

講師: 櫻井 理(NPO 法人 LIFESET)

概要: 東日本大震災から丸 6 年を迎えたが、被災地の復興は、まだまだ道半ばといった印象である。私は、宮城県名取市で、家族と共に、在宅生活を送っている筋ジストロフィー患者で、2003 年の秋から、生命維持のために人工呼吸器が 24 時間必要な生活を送っているが、地域社会の中で暮らすことを選択し、現在に至っている。今回、『重度障害と被災』をテーマとし、私自身の体験とそれに基づく考えに加えて、震災後の活動を通し、明るみとなっている現状の検証と課題の考察を行い、地域防災力向上に向けた【当事者参画と地域ネットワーク】の必要性を考えたい。震災では、人工呼吸器の電源を失い、人工呼吸器の作動停止といった危機的状況に陥った。手動の救急蘇生バッグ使用により、辛くも命を繋いだといった状況であった。震災の状況を振り返りながら、重度障害や難病のある方が安心安全に暮らしていける地域づくりやネットワークの構築について、提言をさせていただく。





### ⑧特別支援教育SIG

#### 「発達支援をかんがえよう！」

講師：北山 淳(大和大学)

概要：作業療法士の北山です。

これまで、お子さんの対人スキルに関わる表情認知の特徴をアイカメラを用いて把握したり、学校現場で環境調整に取り組んだり、子どもたちがのびのびと育てる手立てや環境を探ってきました。現在は大学で人材育成にも携わっています。

講習会では、発達に多様な子どもたちへの支援のヒントについて話題提供しつつ、みなさまと一緒に考える時間としたいと思います。

教育分野に限らず、さまざまな立場からのご参加をお待ちしています。



### ⑨移乗機器SIG

#### 「みんなが「使ってくれる！」移乗機器の導入のコツ」

講師：松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)

概要：リフトやトランスファーボード、スライディングシートなど、少しずつ移乗機器を導入してくれる病院施設が増えてきています。でもいざ導入してもなかなか思うように使ってくれていないという場面はありませんか？

なぜなのでしょう…。「一生懸命勉強会をしたのに…」  
「いつでも使えるように台数を入れたのに…」いつの間にか使われなくなり、今までの方法に戻ってしまう。そんな経験はありませんか？

また、導入することに対してなぜ嫌がる方がいるのでしょうか？どうすれば前向きに移乗機器を受け入れてくれるのでしょうか？

今回のセミナーでは機器を導入するときや、定着させたいときのヒントを「ケアの現場の方に向けて行ったら良いこと」と「施設長や事務方に向けて行ったら良いこと」という2つの視点で、実際に複数の病院施設に機器導



### ⑩移乗機器SIG

#### 「みんなが「使ってくれる！」移乗機器の教え方・伝え方」

講師：松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)

概要：移乗機器に関わらず、福祉用具の使い方を教えるときに「教えたとおりにしてくれない」「なかなか覚えてくれない」という悩みを抱えていませんか？

また、せっかく教えて、使ってくれていても、マニュアル通りにできないケースが出てくると途端に使ってくれなくなったなどの悩みを持っていませんか？

もしかしたら、それは「教え方や伝え方」を工夫すれば改善できるかもしれません。

今回は実際にスライディングシートやトランスファーボード、リフトなどを例にしながら「効果的な教え方・伝え方」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



#### ⑫コミュニケーションSIG

##### 「力の弱い障害を持つ方のゲーム操作を考えよう！」

講師：田中栄一（国立病院機構八雲病院）

概要：力が弱くてゲーム機器をうまく使えない障害をもつ方々がいます。

クラスメイトがゲームで遊んでいるのを、ただ隣で眺めているだけではつまらない。

自分も一緒に対戦したい。仲間に入りたいと思うのです。

今回取り上げるのは、任天堂や SONY のゲーム機や、スマホのゲームです。

海外では、日本製のゲーム機器の工夫の情報交換が積極的に行われているようです。

この機会に、ぜひ日本でも、どんな操作方法の工夫や、楽しみ方があるのか？意見を交わしましょう！



#### ⑭コミュニケーションSIG

##### 「情報通信機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を操作する入力装置について」

講師：上野忠浩（横浜市総合リハビリテーションセンター）

概要：情報通信機器として代表的なパソコンは普及して久しい。

最近の特徴はスマートフォンやタブレット端末の普及が著しいことである。

これらは表示画面を指で触れることで操作する（タッチ操作）方法は共通であるが、オペレーティングシステム（基本ソフト）の違いにより Android 系と iOS 系に分類され、外部（スイッチなど）からの操作方法が異なる。

Android 系端末はパソコンと似ており「USB マウス／キーボード」が利用できる。iOS 系端末では「無線（Bluetooth）機能付きのキーボード」や基本ソフト上に「スイッチコントロール」機能が盛り込まれており、有線や無線で接続した「スイッチ」のスキャン操作が可能である。

この講習会ではこれら情報通信機器の特徴を考慮しながら、現在市販されている入力装置について説明し、実際の導入事例や導入時に利用できた福祉制度等についても紹介する。





### ⑬車いすSIG

#### 「車椅子用クッションの選び方・使い方」

講師：江原喜人(総合せき損センター)

概要：車椅子を使用する時、クッションもセットで考えるのが基本です。現在では、数多くの種類が市販・貸与されています。それらの素材の特徴や構造の意味などを知り、使用者にとって適切なものを選択することが重要です。調整が必要なクッションも増えていますので、その調整方法を知ることも必要です。

今回は、体圧分布測定器を使った実習を交えながら、車椅子用クッションの特徴について、また使用者や車椅子に合った選び方、適合方法などについて一緒に考えていきたいと考えています。



### ⑮車いすSIG

#### 「「地域包括ケアシステム」における車椅子ユーザーの生活」

講師：桂 律也(クラーク病院)

概要：「地域包括ケアシステム」の平成 30 年度の運用開始に向け、主体となる市町村はもちろん、障害者当事者・介護保険各種事業者・関連職団体などは、困惑しながらも取り組みが進んでいるところです。そんな中で、このシステムと、障害者・子どもの福祉との連携運用を図るため、障害者総合支援法と児童福祉法の一部を改正する法律が、平成 28 年度に成立・公布され、平成 30 年 4 月から施行されます。今回は、車いす SIG として、本システム運用後、車椅子ユーザーの生活にどのような変化が起こると想定されるかについて、数例のユーザーを仮想して、シミュレーションしてみたいと思います。その上で、リハビリテーション医療関係者、車椅子業者、介護保険事業者などに求められる今後の対応についても言及する予定です。





## ⑩自助具SIG

### 「身近な福祉用具、自助具の選び方、使い方」

講師：岡田英志(ヒューマン)

概要：はじめに、生活の中での自助具の事例紹介をし、自助具のサンプルを元に使い方や製作時のポイントをお話します。後半は、握りやすいスプーンの製作など、実際に体験する事で自助具を身近に感じていただきたいと思います。最後は質疑応答の時間といたします。



## ⑪SIG 褥そう防止装置

### 「新しい褥そう概念とリハビリテーション工学」

講師：河合俊宏(埼玉県リハセンター)

概要：褥そうは、長い間リハビリテーション工学の対象とされてきています。

脊髄損傷の坐骨部、寝たきり高齢者の仙尾骨部、装具の不適合による下腿と、問題が明確であっても、なかなか完治せず、褥そうをもったまま生活している方も少なくありません。

最近になって概念が、より広く再定義されています。人工呼吸器利用者のフェイスマスク部周辺、瘻管理のチューブ固定、テープ貼付による皮膚損傷と、従来の概念だけでは説明がつかないものも、新たな課題になっています。

今回、生活支援に展開してゆくために、用語の観点から解説をしたいと考えています。

深部組織損傷、医療関連機器圧迫創傷、Pressure Injury、ご存じですか？

是非、ご参加ください。



◆講師・スタッフ一覧

スタッフ	協会 会長	繁成 剛
スタッフ	協会 東日本大震災復興支援講習会実行委員会 委員長	沖川 悦三
スタッフ	協会 東日本大震災復興支援講習会実行委員会 委員	金井 謙介
スタッフ	協会 東日本大震災復興支援講習会実行委員会 委員	中村 俊哉
スタッフ	協会 東日本大震災復興支援講習会実行委員会 委員	岩崎 満男
スタッフ	協会 東日本大震災復興支援講習会実行委員会 委員	吉田 泰三
スタッフ	協会 東日本大震災復興支援講習会実行委員会 委員	赤澤 康史
スタッフ	協会 東日本大震災復興支援講習会実行委員会 委員	深野 栄子
スタッフ	東日本大震災復興支援講習会ボランティアスタッフ	加藤 鈴菜
講師	特別企画	市川 一子
講師	特別企画	岩崎 満男
講師	特別企画	吉田 泰三
講師	コミュニケーションSIG	田中 栄一
講師	コミュニケーションSIG	上野 忠浩
講師	SIG姿勢保持	繁成 剛
講師	SIG姿勢保持	鈴木 聖貴
講師	SIG姿勢保持	本郷 俊弥
講師	車いすSIG	江原 喜人
講師	車いすSIG	桂 律也
講師	特別支援教育SIG	北山 淳
講師	特別支援教育SIG	松田 靖史
講師	特別支援教育SIG	高原 光恵
講師	SIG住まいづくり	松尾 清美
講師	移乗機器SIG	松本 多正
講師	移乗機器SIG	大場 薫
講師	乗り物SIG	櫻井 理
講師	乗り物SIG	岩崎 満男
講師	乗り物SIG	増子 千景
講師	SIG褥そう防止装置	河合 俊宏
講師	SIG自助具	岡田 英志

◆参加者内訳

職種別

職種	人数
理学療法士	23
作業療法士	14
製造・営業	4
介護職	1
教員	2
学生	5
その他	2
合計	51

都道府県別

北海道	信越	近畿	四国
	長野	滋賀	徳島
東北 47	新潟	京都	香川
青森		大阪	愛媛
岩手	北陸	兵庫	高知
宮城★ 28	富山	奈良	
秋田	石川	和歌山	九州
山形	福井		福岡
福島 12		中国	佐賀
	東海	鳥取	長崎
関東 4	岐阜	島根	熊本
茨城	静岡	岡山	大分
栃木	愛知	広島	宮崎
群馬	三重	山口	鹿児島
埼玉			
千葉			沖縄
東京			
神奈川			合計 51
山梨			

講義別

	1日目 5月13日(土)		2日目 5月14日(日)	
	4階 第2会議室(60名)	4階 研修室(64名)	4階 第2会議室(60名)	4階 第1会議室(60名)
	特別企画		移乗機器SIG	自助具SIG
10:10~ 11:50	① 29		⑨ 21	⑩ 21
	SIG姿勢保持	SIG住まいづくり	移乗機器SIG	コミュニケーションSIG
12:50~ 14:10	③ 31	④ 12	⑪ 26	⑫ 16
	SIG姿勢保持	乗り物SIG	車いすSIG	コミュニケーションSIG
14:20~ 15:40	⑤ 30	⑥ 15	⑬ 27	⑭ 13
		特別支援教育SIG	車いすSIG	SIG褥そう防止装置
15:50~ 17:10		⑧ 20	⑮ 16	⑯ 24

◆アンケート結果

受講申込数：51名 当日受講者数 51名 回答数：26（回答率：50.9%）

1 職種および経験年数をお教えてください。

〈職種〉	回答数	経験年数						
		～5年 目	6～10 年目	11～ 15年 目	16～ 20年 目	21～ 30年 目	31年 目～	未記 入
理学療法士	15	4	5	4		1		1
作業療法士	9	2	4	1			1	1
言語聴覚士	0							
医師	0							
看護師	0							
保健師	0							
エンジニア	0							
義肢装具士	0							
建築士	0							
製造・営業	0							
介護支援専門員	0							
介護職	1	1						
介護福祉士	0							
相談員	0							
社会福祉士	0							
支援員	0							
教員	0							
その他	0							
未記入	1							1
合計	26							

2 日本リハビリテーション工学協会の協会員ですか？（該当するものを○で囲んでください）

ア. 協会員	1
イ. 非協会員	24
未記入	1
合計	26

3 何県からのご参加でしたか？

岩手県	5
宮城県	10
福島県	10
未記入	1
合計	26

4 当協会では障害のある方のリハビリテーションを支援する機器や技術について、リハビリテーションに関係するさまざまな分野の参加者が互いに理解できる言葉で納得できるまで討論することを目的として、毎年1回リハ工学カンファレンスを開催しています。次回は2017年8月22日（火）～24日（木）に神戸国際会議場（神戸市）にて開催の予定です。参加してみたいと思いますか？



ア. はい	4
イ. 何とも言えない	14
ウ. いいえ	6
未記入	2
合計	26

◆ 今回の講習会を何で知りましたか？（参加申込書設問事項）

ア. 当協会のホームページ	6
イ. 当協会からのDM(開催案内)送付	21
エ. その他	19
職場	2
協賛企業	2
知人	9
教員	4
未記入	2
未記入	5
合計	51

5 今回の講習会について

(1) 開催曜日はいかがでしたか？

ア. 土日でよい	25
イ. 週末(金土)がよい	0
ウ. 平日がよい	0
未記入	1
合計	26

(2) 開催日数（2日）はいかがでしたか？

ア. 短い	0
イ. ちょうどよい	25
ウ. 長い	0
未記入	1
合計	26

(3) 講習会はいかがでしたか？

ア. 満足度が高かった	18
イ. 満足度がふつう	6
ウ. 満足度が低かった	
未記入	2
合計	26

※帰って若い子らに教えたい内容ばかりでした！

(4) どの講義を受講されましたか？

(5) 今度受講してみたい講義はありますか？

	(4).	(5).																
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	
①-1 特別企画 「宮城県名取市箱塚桜団地仮設住宅と共に」	20																	
①-2 特別企画 「熊本地震を通してリハビリテーション工学協会ができたこと、できなかったこと」	19																	
③SIG姿勢保持 「標準型車椅子での座位姿勢を改善する具体的な方法と技術」	16				7													
④SIG住まいづくり 「高齢や身体障害のため、起立や歩行ができなくても、福祉用具を活用し住環境改善で楽しい生活を！」	6			5	1													
⑤SIG姿勢保持 「身近な材料を使った姿勢保持具の製作実習」	18					2	3											
⑥乗り物SIG 「重度障害と被災～地域防災力の向上に向けて～」	4					2												
⑧特別支援教育SIG 「発達支援をかんがえよう！」	10																	
⑨移乗機器SIG 「「みんなが使ってくれる」移乗機器導入のコツ」	9										5							
⑩自助具SIG 「自立生活を支える自助具」	12									7	1							
⑪移乗機器SIG 「「みんなが使ってくれる」移乗機器の教え方・伝え方」	15												1					
⑫コミュニケーションSIG 「力の弱い障害を持つ方のゲーム操作を考えよう！」	7											3	2					
⑬車いすSIG 「車椅子用クッションの選び方・使い方 ～体圧分布測定器を用いた評価～」	15													2	3			
⑭コミュニケーションSIG 「情報通信機器(パソコン、スマートフォン、タブレット)を操作する入力装置について」	7													3	1			
⑮車いすSIG 「地域包括ケアシステム」における車椅子ユーザーの生活」	5																3	
⑯SIG褥そう防止装置 「新しい褥そう概念とリハビリテーション工学」	16																4	
未記入					1	1			1	1	1						1	2

6 日本リハビリテーション工学協会には下記 10 のSIGがあります。今後どのSIGのどのようなテーマの講義を受けてみたいですか？

コミュニケーションSIG	4	◆スイッチの作り方 ◆コミュニケーション情報通信機器を操作する入力装置など。コミュニケーション手段
SIG姿勢保持	4	◆片マヒで緊張が抜けない人の保持の仕方 ◆ポジショニング ◆体験、実技
車いすSIG	8	◆リクライニング車椅子での安全な食事、移乗方法 ◆車椅子用クッションを用いた事例など ◆シーティング
乗り物SIG		
自助具SIG	3	◆今回のものを更にもっとやりたい ◆もっと時間がほしかった ◆選択、製作
特別支援教育SIG		
SIG住まいづくり	3	◆環境調整の具体例
移乗機器SIG	2	◆介助 ◆リフト
SIG褥そう防止装置	2	◆褥そう防止するためにできること
義肢装具SIG		

7 今回の講習会のご意見・ご感想等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

◆両方面からの話が聞けてとてもよかったです。復興支援としての研修会で震災を経験した障害者の人たち、ボランティアの人の話もあったため、オープン枠としてもっとたくさんの障害を持つ人達にも参加していただけたらよかったなあと思います。
◆初めての参加でしたが、日々の業務に応用できるような内容だったので、とても楽しく講習を受けることができました。また機会があれば参加したいと思いますし、臨床でもできるような内容を実施できるように努めたいと思います。
◆どの講義も楽しく受講することができました。北山敦先生の講義の中で、ゴリラを画面で見ることができませんでした。子供だけでなく全てに共通することであり、なかなか難しいが(本人は行っているつもり)見つけられないでいる“ゴリラ”に気がつけるよう、アンテナを張っていけたらと思っています。ありがとうございました。座学で眠くなったら“不安”でしたが、まったく心配なく全て眼がランラン。頭は疲労…
◆身近なものを使ってポジショニング等を行う方法を聞くことができたので、ぜひ今後の業務に活かしたいと思います。
◆船底型シートベースの作り方の資料も配布してほしいと思った。同じ講習を1h2回に分けてほしいと思った。
◆どの講義も大変参考になりました。ありがとうございました。講義で使用したスライドも資料として頂きたかったです。
◆もっと聞いてみたいと思いました。
◆とても勉強になりました。ありがとうございました。
◆とても勉強になりました。
◆勉強になりました。ありがとうございました。
◆また仙台でやってください。
◆とても楽しく、わかりやすく、目からウロコの2日間でした。ありがとうございました。
◆とても参考になりました。学会等にも参加してみたいです。

最後に・・・今回の講習会を採点すると100点満点で何点ですか？

100点	9
95～99点	2
90～94点	2
85～89点	
80～84点	4
75～79点	
70～74点	3
未記入	6
合計	26



# Rehabilitation Engineering Society of JAPAN





## 第 32 回リハ工学カンファレンス in 神戸

大会について

Powerful Asia の統一テーマの下、アジアのリハ工学と支援技術の国際会議である、i-CREATE 2017（リハ工学・支援技術国際会議）と同時に、神戸のポートアイランドにある「神戸国際会議場」にて開催します。

大会テーマ

Powerful Asia

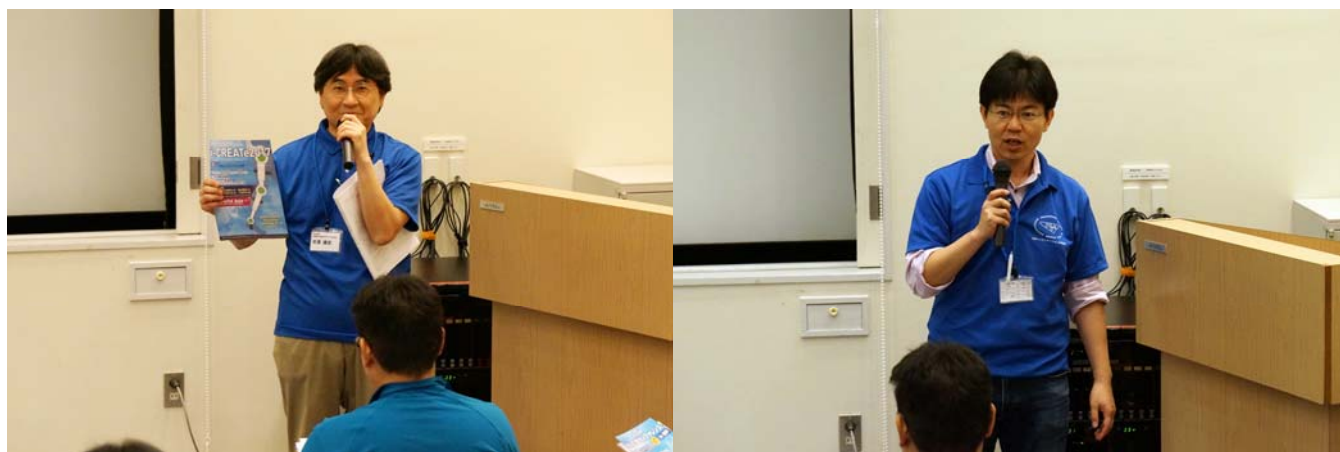
～支える技術でつながる みんなと社会 ～

会期：2017年8月22日（火曜日）から24日（木曜日）

会場：神戸国際会議場

主催：一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

同時開催：i-CREATE 2017



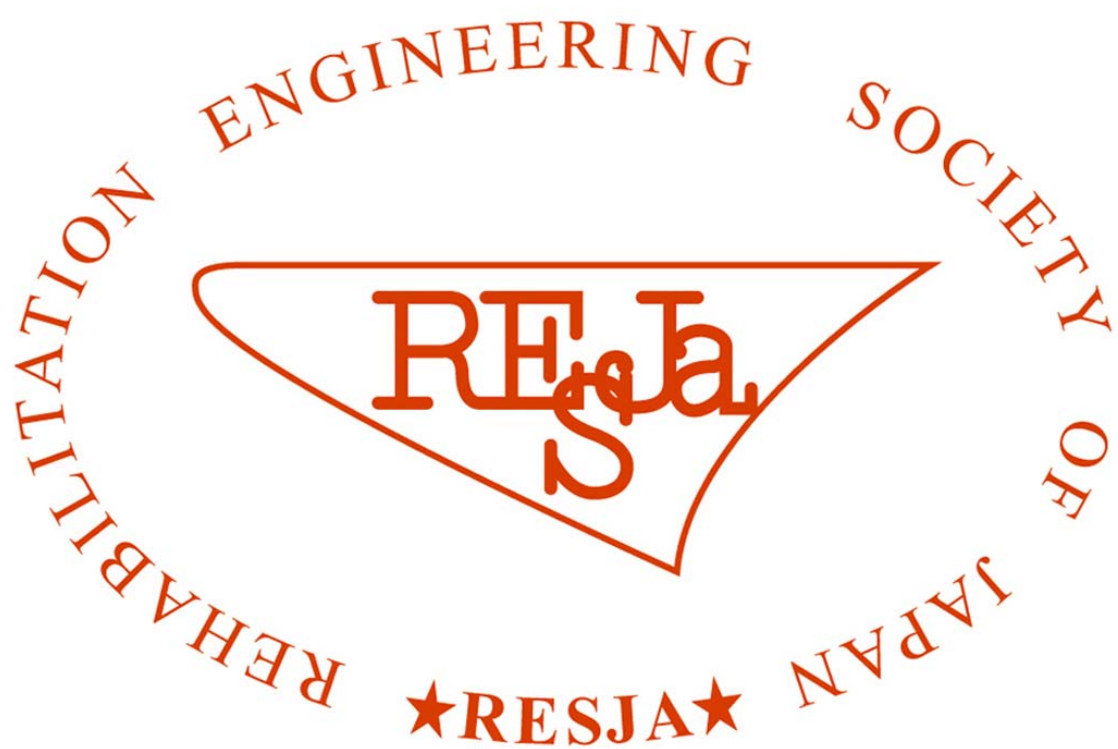
報告書作成

2017年6月15日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 2-7-20

TEL : 045-353-8364 FAX : 045-353-8365



日本リハビリテーション工学協会